

「第5回全国スポーツクラブ会議 i n 標津」開催報告

「第5回全国スポーツクラブ会議 i n 標津」が去る10月15日（土）・16日（日）の2日間にわたり、北海道標津町において開催されました。

全国33都道府県より318名ものスポーツクラブ関係者が集い、活発な意見交換が行われました。

今回は、『「故郷」～がんばろうニッポン、今必要なスポーツクラブの力～』をテーマとした、「東日本大震災」の復興支援も含めた内容となっており、“パネルディスカッション・講演・分科会”と、多くのプログラムが組みられ、参加者にとって非常に有意義な時間となりました。



【第1日目】

<開会式>

開会式では、標津町実行委員会委員長のあいさつに始まり、開会セレモニーでは、地元標津町のジャズオーケストラによる歓迎の演奏が行われました。

「全国協議会の歩みと今大会のテーマ」について、福島大学の黒須充氏（本会地域スポーツクラブ育成専門委員会副委員長）より説明があり、東日本大震災の被災地において実際に行われたクラブの支援活動について報告がなされました。



【地元ジャズオーケストラによる歓迎の演奏】

<パネルディスカッション>

パネルディスカッションでは、「ネットワークとクラブの協働」と題し、4名のパネリストから、それぞれのテーマについて発表いただきました。



NPO法人フォルダ（岩手県）の司東道雄氏からは、東日本大震災の被災者に対する具体的な支援活動について、秋田県体育協会クラブ育成アドバイザーの田中忠夫氏からは、秋田県内のクラブにおける被災地

支援活動や、これからの復興支援へ向けた具体的な方法案について、当麻スポーツクラブ（北海道）の上野和佳子氏からは、トップアスリートの母としての想い、そして、総合型地域スポーツクラブの運営に携わるようになったきっかけについてお話しいただきました。また、ゼビオ株式会社の中村孝昭氏からは、自社における既存スポーツクラブやスポーツ施設との取り組み事例および復興支援に関する取り組みについて、発表いただきました。



< 講演 >

講演では、「泣き虫先生」として有名な山口良治氏（伏見工業高校ラグビー部総監督・環太平洋大学教授）を招き、ご自身の現役生活や教員時代の経験について貴重なお話をいただきました。

「何事にも熱い思いが必要」、「“ミッション” “ビジョン” “パッション”（M・V・P）がとても大切」であり、また、子どもの可能性は無限大で、良いか悪いかで決めつけるのではなく、その子の良い所を引き出すことが大切であると語られました。山口氏の身振り手振りを交えた熱い語りかけに対して、参加者は自分の中にある“パッション”を改めて再確認できたのではないのでしょうか。



【参加者に熱く語りかける山口良治氏】

その雰囲気は、そのままその後の情報交換会にも引き継がれ、地元の名産品や参加クラブが持ち寄った各地の特産物等、また様々なアトラクションも用意されたなか、参加者は多くの方との交流を楽しみました。

【第2日目】

< 分科会 >

分科会では、「クラブ発展の処方箋」と題し、4つのテーマに分かれて参加者が意見交換を行いました。どのグループも120分間が短く感じられるほど熱い意見交換がなされ、まだまだ話し足りないといった雰囲気のなか

での終了となりました。



【分科会 各会場の様子】

<閉会式>

閉会式では、次回の開催地が和歌山県に決定したことが報告され、「全国スポーツクラブ会議旗」が和歌山県のNPO法人会津スポーツクラブへと引き継がれました。第6回全国スポーツクラブ会議は平成24年5月19日・20日に開催されます。

標津で抱いた熱い思いがそれぞれのクラブで広がり、さらに成長されて和歌山で再会されることを願っております。



【全国スポーツクラブ会議旗が引き継がれました】